板橋区　第４回（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画検討会 会議録	
会議名	（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画検討会
開催日時	令和７年９月10日（水）10:00～12:00
開催場所	板橋区役所南館４階災害対策本部室
出席者	[委員] ５人（敬称略） 東京大学宇宙線研究所高エネルギー宇宙線研究部門乗鞍観測所所長教授 埒 隆志（会長） 独立行政法人理化学研究所和光研究所中央研究所大森素形材光学研究室 主任研究員　大森 整（副会長） 株式会社トプコン総務・人事・法務本部総務部総務課プロフェッショナル 富田 克則 国立大学法人お茶の水女子大学理系女性育成啓発研究所所長 加藤 美砂子 チームオプト株式会社代表取締役社長 槌田 博文 [事務局] 板橋区産業戦略担当課長　山川 信也
会議の公開	公開（傍聴できる）
傍聴者数	２名
議題	（１）　（仮称）産業ミュージアム基本構想（概要版）
資料	資料１　（仮称）産業ミュージアム基本計画について 資料２　（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画中間のまとめ
議事要旨	（１）　（仮称）産業ミュージアム基本構想（概要版） 会長 　これより第４回検討会を開始する。前回は、キーワードを元にソフト事業計画について意見を述べた。 　まずは事務局から配布資料のご説明を頂きたい。 事務局 　配布資料「資料１（仮称）産業ミュージアム基本計画について」「資料２（仮称）産業ミュージアム基本構想・基本計画中間のまとめ」に沿って説明する。

	（資料説明） 事務局 　昨今の区の動向も説明する。9月3日(水)に理化学研究所と「連携に係る研究協力協定」を締結した。これまでは大森委員の研究室との連携だったが、領域を広げた。産業分野全体で、区と理化学研究所で協力できることを見据えての協定であり、将来的に産業ミュージアムにも発展すると有難い。また、8月には板橋区グリーンホールで、理化学研究所、日本光学会、宇都宮大学、板橋区の4者でオプトフォーラムを共同開催した。大森委員と槌田委員に出席いただき、ひかりの仕事シンポジウムと同時開催した。来場者は、昨年の388名の1.5倍となる570名と盛況だった。 会長 　主な来場者は、企業と研究者か。 事務局 　主にはそうだが、一般の来場者もいる。「光の仕事シンポジウム」と共同開催だったので、大学生の来場者もいた。 　令和に入ってから最多の来場者数だった。基調講演は、フレネルレンズに詳しい東大の星野先生に実施いただき、満員だった。 会長 　事務局からの説明内容について、委員から確認や意見はあるか。 委員 　加賀藩下屋敷時代の話は、これまでの検討会では扱いがなかったが、大砲鋳造や博物学・洋楽の研究の話は関連する。歴史からも関心を持つことが出来るうえ、加賀藩は強く響くキーワードなので、改めて説明をお願いしたい。 事務局 　加賀藩時代は、石神井川を水源に水車を使って動力を生み、大砲を鋳造していた。加賀藩の歴史も踏まえ、産業ミュージアム単体ではなく史跡公園全体で広報できればと思う。加賀藩の歴史については、主に旧野口研究所部分にてガイダンスを行う。産業ミュージアムでの歴史は、旧理化学研究所板橋分所の研究にスポットライトを当てる形で差別化したい。

	委員 　加賀藩エリア、近代エリアと分かれることで差別化できてよい。 事務局 　産業ミュージアムは近代史、野口研究所はそれ以前の歴史とできればと思う。 委員 　この検討会では、産業ミュージアムについて議論をしているが、史跡公園全体の話も対象となるのか、改めて確認したい。 事務局 　この検討会の対象は、産業ミュージアムを設置する旧理化学研究所エリアである。産業ミュージアムで今後語りたい歴史は、主に旧理化学研究所板橋分所での研究となる。旧理化学研究所の建造物に着目したソフト事業としたい。史跡公園全体については、生涯学習課にて検討している。 委員 　将来、オープンしたときにどのような組織体制になるのか。 生涯学習課 　組織体制は今後の検討となる。史跡公園全体の活用については、史跡陸軍板橋火薬製造所跡整備専門委員会で議論をしている。来年度には、史跡公園内が一体となるように全体的な検討を進めていく。 委員 　改めて議論の対象がクリアになった。今回ソフト事業を検討するにあたっては対象を絞る必要があり、来年度広い話になると理解した。 委員 　実証実験について、ファブラボという要素はいかがか。史跡陸軍板橋火薬製造所跡整備専門委員会でも紹介があった。利用料を支払い、学生、大学院生、研究者、中高の学生と先生が集まり、議論をしながら工作できる場があるといい。また、国際化も重要なポイントではないか。旧理化学研究所時代に、外国から研究者が来て滞在していた。旧理化学研究所の特色を引き継ぐことを考えると、国際化を盛り込めると良い。海外の先生がネットで宇宙線

	研究所だったことを知って学生を連れて行ってみようとなるといい。展示パネルの国際化も必要になるが、せっかくなら海外とリンクした施設になると良い。コミュニティの国際化はいかがか。 事務局 　国際化については、インバウンド観光客の増加も鑑み、展示パネルの英語表記対応のほか、コミュニティ事業を中心に何かしら検討したい。ファブラボも、ものづくりや実証実験においてそういった要素を含められないか検討したい。 委員 　あそびについて、学童保育をやるのはどうか。理科の実験ができる学童は人気である。また、大学では、将来サラリーマンになる道しかないと思われないように、女性起業家を招聘して話を聞く機会を設けている。自分の思いを形にしたければスタートアップも考えられる。小さい頃から起業も検討できる環境をつくれるとよい。 委員 　そもそも学童が不足しており、特に高学年向けの学童が限られているという話もある。 事務局 　アントレプレナーシップの記載について、等と丸めた表現としているが、女性起業家も明記したい。近年は働き方も柔軟になった。いろいろな選択肢のある生の声を拾いたい。学童保育も面白い意見である。ものづくりなどで、理科・科学をテーマにコラボできると良い。ただ、スペースの課題がある。実現可能性も含めて内部で検討したい。 委員 　各学校から、まずは学校での機会を充実させてほしいという要望が出るかもしれない。起業について、探究機会のサポートまでで、実際の起業のサポートはないのか。 事務局 　産業振興課が企業活性化センター等で取組を行っている。

	委員 　シリコンバレーのような新しいフラッグシップを作るという話になると良い。 委員 　ファブラボもアントレプレナーシップワークショップも、指導してくださる方がいることが大事である。起業家の方に声をかけるなど、定期的に誰かが滞在するようにできるといい。工作も、機器の使い方やものの作り方を、設計図から工程指示書にまでブレイクダウンできるアドバイザーがいるといい。 委員 　企業の方を呼ぶ場合、そこからビジネスにしなければいけないだろう。ボランティアとして関わることもあるのか。 委員 　事業を損なわない範囲での線引きが必要だろう。 委員 　子ども発明事業のような、絵を描けるレベルのアイデアを形にする事業はいかがか。 事務局 　「いたばし未来の発明王コンテスト」は、毎年７月から９月の夏休みの時期に募集をしている。年度末にかけてコンテストを実施し、グランプリを選んでいる。昨年は、小学校 2 年生の子の教室猫ロボットがグランプリだった。教室で授業をしている際に、走らせて猫型ロボットが声をかけるという先生の働き方改革につながるもの。準グランプリはプラントエコ燃料の電池を使った車。毎年実施しているが、まだ応募したことがない子どもたちもいることが課題。裾野を広く発明の考え方を伝えたい。コンテスト前と終了後の取り組みでメッセージを伝えられると良い。 委員 　実装のところまで形に出来ると良い。 事務局

	コンテストの一環で、ブラッシュアップ研修を実施している。アルバイトの大学生が子どもたち一人ひとりに資料の作り方を教え、アイデアのブラッシュアップも実施している。最終的にはプレゼンをする。審査だけでないのが「いたばし未来の発明王コンテスト」の特徴で、書類で応募したものからは似ても似つかない良いものができることもある。 委員 まさにトップ理系人材育成プログラムではないか。 委員 毎年やっているので、小学校２年生のころから続けて常連になっている小学校高学年・中学生の子もいる。その子は、毎年提案内容が違い、家や学校など身近な場所の課題解決から、環境問題までやっており、発明の幅が広がっている。 委員 裾野を広げることも大事だし、絞ってトップを育成することも大事。 委員 コミュニティファームの領域では、区内企業の株式会社タニタのタニタ食堂が非常に有名である。食育のような保護者の方の関心が高いコンテンツにすることも可能ではないか。 事務局 どこまで実施するかは検討が必要だが、区の本庁舎のように、タニタや家政大学と連携しながら、栄養学を生かしたメニュー検討をすることも考えられる。 委員 食事を提供するのは実施ハードルが高いので、知識を提供するなどハードルが低いコンテンツに出来ればと思っている。 事務局 フルーツを使ってクラフトビールを作るような、アルコール関係も面白いと思っている。大手町ではビルの屋上でコミュニティファームを実施していた。屋上にプランターを設置し、スマホから会員登録をした付近で働いてい

	る方がファームに入ることができる。例えばぶどうを皆で育てて、ワインにしている。ここでもそういった検討が出来たらと思う。場所としては、現在マイクロ加工棟がある広場を活用することを検討している。地域の皆で水やりや栽培をして、その風景を SNS で共有するようなことが出来ると面白いのではないか。 委員 　理化学研究所時代は、ミントが庭に生えていたほか、みょうが、そばを植えて収穫していた。そばがきを作って食べていた。日当たりがいいので色々育つだろう。果樹も豊富で、びわは生り放題であった。夏ミカンも昔の品種で酸っぱいが名物になるだろう。梅やあんずを、梅酒やあんず酒にしていた。隣の福祉園の方が収穫し、ジュースにしてくれることもあった。 委員 　議論したいテーマの一つに、研究をテーマとしたソフト事業の展開についてがあるが、何か意見あるか。 委員 　理系人材育成という目的に沿っており、よいと思う。 委員 　理研時代に暗室があったが、今の子どもたちは暗室が何かわからない。なぜこのような部屋が必要だったのか、部屋のレイアウトと絡めながら教えられると良い。写真フィルムのように、現在需要がないものも、その意味を理解すると新たなアイデアが生まれるきっかけになる。説明を加えながら体験学習ができると良い。 事務局 　レール跡や骨組みなど、部屋ごとに様々な歴史がある。 委員 　研究の歴史という意味で、歴史も残せればと思う。実現性が伴うかがシビアに議論しなければいけないと思った。 委員 　例えば人材について、ボランティアに頼る部分はあるだろう。専用のスタ

	ッフがどれだけ必要か。地域企業の活動がすべてボランティアになってはいけない。人・体制の実現性はどうなるのか。 事務局 　運営に関わる人員数はまだ具体的に策定していない。市ヶ谷にある大日本印刷の「市谷の杜 本と活字館」という博物館に行った際は、雇用している専属スタッフ 10 数名とのことだった。必要な人数は実施する事業によって変動する。ボランティアは、大学生や地域住民を考えている。地域で愛着のある施設になれば、シビックプライドも醸成されるだろう。視察したおもちゃ博物館では、学芸員登録をした地域住民が昔のおもちゃを紹介するなど、事業に関わっていた。ジュニアボランティア制度があれば子ども同士の教えあいもできる。若い世代から地域の方まで幅広くボランティアとして関わっていただけないかと考えている。 委員 　ボランティアを取りまとめるチームも必要だ。 事務局 　ソフト事業が固まったあとに検討する。 委員 　概要版の内容について違和感はなく、良いと思う。本当に人が訪れてくれるのかを懸念しており、もっと切れ味鋭い特徴的な計画にしないと人が来ないのではないかと考えている。人を集めるうえで、産業ミュージアムの目的を明確にした方がいいのではないか。現在、板橋ブランドの向上と記載があるが、区の基本構想と絡めながらもう少し明確にした方がいいのではないか。区の基本構想の検討会委員を担当しているが、板橋区の誇りについて花火と区民まつりという回答だった。次の誇りになるものとして、産業ミュージアムが考えられるのではないか。ブランド向上も大事だが、将来も見据えて区民の誇りになることが大事だ。また、企業の事業計画では売上計画が必要であり、本計画では来場者数の目標が必要ではないか。公園全体での年間来場者数が 100 万人だとすると、産業ミュージアムでは年間 50 万人の来場者が必要だろう。人を呼ぶためには特徴を出して、50 万人来場してくれそうな計画にしなければいけない。10 年後 20 年後の誇りにするんだという気持ちで作らないといけない。

	事務局 　区民の誇りになり「板橋といえば」という施設になってほしい。来場者数は重要なところで、計画でどこまで明記するかは今後の議論だが、内部では試算している。多くの方に来ていただきたいが、周辺のハイレベルな施設を視察しながら、検討する側の基準も上げていきたい。4 月から 3 人の担当で 76 箇所の施設を巡っている。産業ミュージアムが魅力的なものになるか、手触り感を持ってやっていきたい。 委員 　集客のイメージは、区外の方が来訪しづらい立地なので区民の方に気軽に来てほしい感覚でいた。何度も来てワークショップで手を動かしていただく場なのか、ふらっと来てもらう場なのか、でかなり違う。地元の人が中心だと、トータルの集客数が限られる。 委員 　いわゆる「あの手この手」で集めるしかないと思っている。区外から集めるのが大事であり、情報発信が重要である。「〇〇ができる産業ミュージアム」「理系人材を育成する」など、キャッチコピーを散りばめて興味を引きたい。学校側が教育上学びたいことに関係したキーワードを散りばめることで、修学旅行のついでに地方から中高生が来てくれると、かなり集客が良くなるだろう。意図せず書いたキーワードがヒットすることもある。Web で情報を見て、修学旅行の訪問アポにつながるような仕掛けが必要ではないか。 事務局 　団体教育向けのキーワード選びを工夫した方がいいと理解した。区内外からの集客は、コンテンツ自体の魅力を研ぎ澄ませること、広報媒体が来たことがない人にも刺さるような資料にすることが大事だろう。現在作成している本編とは別に、可視性を重視した概要版を最終的に策定する。 委員 　板橋オプトフォーラムでは、海上保安庁の星野先生に灯台のフレネルレンズの話をしていただいた。初めて夏に実施したので、海で涼しそうだから人が来るのではないかと話があり、結果的に盛況だった。一般の方の興味の持ち方は専門家とは異ない、学生のイベントも絡めたことで、若い人も多かった。若い人が入ると雰囲気が違う。こういうことも検討を進めて、ミュージ

	アムに展開したい。 事務局 　星野先生の話が、専門知識のない立場でも面白く非常に良いコンテンツだった。あそこまで人が集まったことに驚いている。 委員 　マスコットキャラクターも必要ではないか。 事務局 　板橋区の観光キャラクターがいるが、それ以外に区の中でいろいろなキャラクターがいる。キャラクターの展開も検討したい。 委員 　キャッチコピーも重要である。理系人材の育成を前面に押し出すのはどうか。誰もが関心を持っており、キャッチコピーから賛同していただけるだろう。プロが考えた良いキャッチコピーがあると集客が全然違う。 会長 　ものづくりもキーワードとして大事だが、当たり前すぎるかもしれない。 委員 　産業ミュージアムが何かをしっかり認知してもらう必要がある。ここに行けばこれが経験できるということが連想できるキャッチコピーや施設のネーミングがよいだろう。記憶に残るものがよいが、単純な方が難しい。プロにお願いするのもいいのではないか。 事務局 　いかに魅力的なコンテンツを作っても、応報媒体で伝わらないと意味がない。一度来た人に愛着を持ってもらえるといい。ロゴやキャラクターも将来的に考えたい。 委員 　キャッチコピーは早い方がいいだろう。 事務局

	予算の関係もあるので、調整したい。 委員 最後何か意見がある方はいるか。 委員 理化学研究所と板橋区の協定の話を紹介したい。共同研究という立て付けで、ものづくりについてバイオ関係の渡邊研究室、メカマテリアルの田中研究室、大森研究室と広く締結した。3 研究室が、なにか新しいヒントを得て新技術研究につながるのではないかということで締結した。産業ミュージアムも、理化学研究所本体に関わってほしいという思いはある。10 月 18 日(土)に和光地区の一般公開も実施し、板橋区も史跡公園についての展示をする。板橋分所はあったことすら知らない人が多いので、知名度を上げたい。 委員 どうやって特徴を出すかのアイデアとして、以前物理オリンピックの話があったが、もう一つは国際化もあるのではないかと思っている。200 人程度の小規模な国際会議を誘致するのはどうか。地方はよくやっているが、東京にはない。会場代もリーズナブルでよいだろう。地道に積み重ねれば PR にもなる。 事務局 板橋区では ODF の誘致実績がある。200 人規模だと、別の場所で実施しサテライト的に産業ミュージアムを使うことになるが、検討したい。 事務局 以上にて質疑を終了とする。次回の第 5 回検討会は、11 月 10 日(月) 14 時～16 時に板橋区立グリーンホール 1 階 101 会議室にて実施する。11 月上旬に改めて事務局より各委員にご案内をする。最後の第 6 回検討会は 12 月 22 日(月)午前 9 時~11 時を予定しており、会場は調整中となる。 会長 これにて第 4 回検討会を終了する。
所管課	産業経済部 産業振興課 産業遺産担当係　（電話 03-3579-2430）